

富士市新環境クリーンセンター建設事業（森林環境創造ゾーン・屋外啓発ゾーン 基本設計）

○全体計画

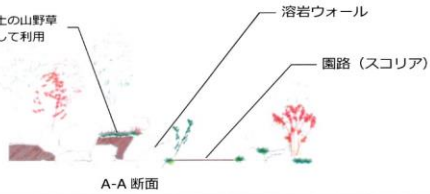


森林環境創造ゾーン

新炭林エリア

造成工事で発生した岩をなるべく利用した溶岩ウォールと昆虫観察ができる新炭林エリアです。

溶岩の隙間を郷土の山野草のプランターとして利用



屋外啓発ゾーン

設置物のイメージ図



富士檜を活用したあずまや



生ごみの堆肥を実践する畑



廃材や廃プラスチックを再利用した遊具（例）



植栽計画例（屋外啓発ゾーン）



クスノキ（シンボルツリー）



ノシバ（芝生広場）



ミツバツツジ・ヘニカナモチ・キンメツゲ（低木）



森林環境創造ゾーン

落葉樹エリア

少しずつ植樹を行いながら長年にわたり森を育てるエリアです。エリアの北側には植樹を行わず、完成後に植樹できるスペースを確保します。エリア南側は紅葉が楽しめる落葉樹で計画します。



水場エリア

大淵地区の沢をイメージし、水辺の生き物を観察するエリアです。



大淵の沢（イメージ）

○モリアオガルの池

事業地内には工事着工前の調査でモリアオガルの生息が確認されています。モリアオガルの産卵に適した水場を計画します。



モリアオガルの池（イメージ）

○湿地

水流出流域に湿地エリアを設け、沼地に生息する生物を観察できます。



湿地（イメージ）

植栽計画例（森林環境創造ゾーン）

○落葉樹エリア



イタヤカエデ



オオモミジ



ヤマザクラ

○新炭林エリア



クスギ



コナラ



フナ

○郷土の山野草



アカネスミレ



アヤマ



エビネ

0 5 10 20 50m

